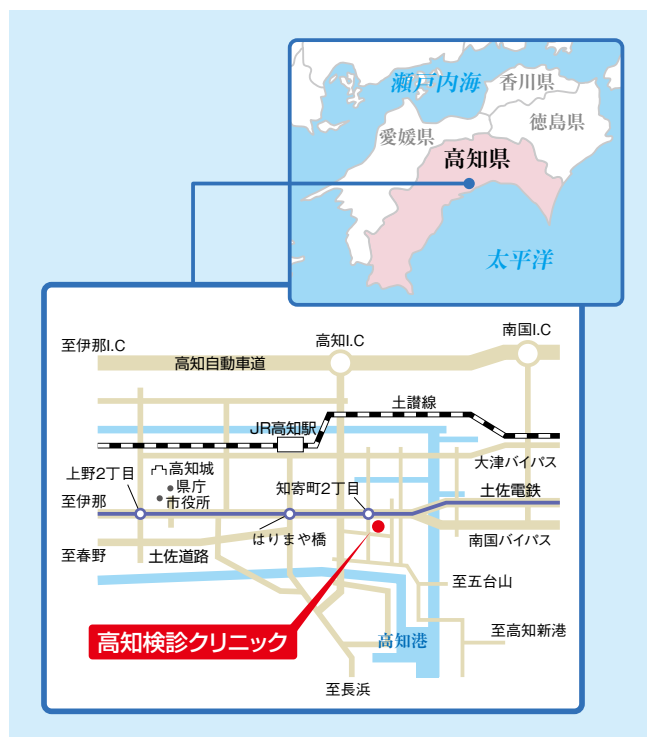


医療法人 健会 高知検診クリニック

# 最先端の医療機器とネットワークシステムにより 常に一步先を見据えたコンセプトの高知検診クリニックを訪ねて

編集委員 小田 和幸 井桁 嘉一



高知検診クリニック外観

医療法人 健会 高知検診クリニック(所長 坪崎英治 先生)は高知市の中央部にあり、県内で最大規模の健診センターです。高知検診クリニックにはFPD搭載透視撮影システムmedix<sup>\*1</sup> LIBERO×5セットのほか、MRI装置APERTO<sup>\*2</sup>、CT装置ProntoSE、超音波装置EUB-6500×3セット、画像サーバー WeVIEWおよび画像ビューアNaturalVIEW<sup>\*3</sup>、血液自動分析装置などが導入されており、中規模病院に匹敵する最新の医療機器が使われています。

一方、2008年度から医療保険者に対し40～74歳までの被保険者・被扶養者への健診・保健指導を義務付ける特定健診制度が実施されるため、各健診施設ではその対応を模索しています。

このような状況の下、健診の現状と今後の動向などについて、上地 清 次長にお話をお聞きしました。

## ○健診の現状について

小田：最近では脳ドックについてよく耳にしますが、その件数は増えていますか。

上地次長：APERTOを使って約3年前から実施していますが、脳ドックの受診件数は増えています。MRI装置で撮影した画像は、光ファイバで高知大学医学部附属病院脳神経外科へ転送して読影を依頼しています。

小田：脳ドックのほか、こちらのセンターで実施している健診についてはいかがでしょうか。

上地次長：ここの健診は大きく分けて、人間ドック、生活習慣病予防健診、特殊健康診断、一般の定期健康診断があります。さらに、定期健診はセンター内健診と出向健診に分かれます。全体として、受診者数は増えています。ところが、人間ドックについては、最近になって回復してきたものの減少傾向にありました。その理由としては町村合併などによる職員の減少、リストラなどによる社員の減少や景気の低迷による企業の減少があると思います。また、健康保険組合の解散

などが原因で他の社会保険に移行することも原因のひとつと考えられます。これは、人間ドックでは健保組合からの補助金が出ることにより受診率が高まるためです。また、少子高齢化による労働人口の減少という社会現象が、直接健診対象者の減少に影響している面もあると思います。今後、人間ドックを活用してもらうための新しい施策が必要となるでしょう。つまり、補助金ではなく、受診される方のニーズに真に応える健診のあり方が健診人口の増加に繋がると考えます。2008年度から特定健診も始まりますが、保健師の指導が中心となるため、特定健診料は人件費相当分の費用と予想され、健診施設にとってはなかなか厳しいものになりそうです。したがって、できるだけ多くの方に受診していただくことが必要になります。

### ○2008年度からスタートする特定健診について

井桁：2008年度から特定健診が始まりますが、そのあたりはいかがでしょうか。

上地次長：特定健診については企業ではなんとかできるでしょうが、市町村ではたいへんになると思います。市町村は保険事業者になりますので、特定健診をどう実施していくのが大きな課題になるでしょう。一般の企業の方は定期健診の中でHbA1c項を追加検査すればメタボリックシンドローム診断については満たされることとなります。ただこれだけであれば出向健診で足りてしまうので、受診者の方が当センターにわざわざ足を運ぶ必要がなくなる可能性があります。

これはわれわれにとって問題です。すなわち、当センターとして、現在、生活習慣病予防健診を受けている人たちを確保する新しいメニューを準備することが課題になります。そこがこれからの健診施設に問われている点です。高知県内では生活習慣病予防健診の受診率が40数パーセントと高いですが、今まで受診している人たちが今後特定健診の内容だけで満足できるのでしょうか。何らかの対策が要りますね。特定健診では、付加健診としてのメニューが国から出ていますが、それだけで満足できるかどうか、具体的ところが問題です。行政は国民全体の平均レベルを見ているが、健診機関としては、受診者ひとりひとりが必要とし、かつ満足できるメニューでなければならないと考えています。最近のニュースでは政管健保の生活習慣病予防健診は従来通り実施される方向だということで被保険者にとっても喜ばしい事だと思えます。

### ○今後の健診について

小田：こちらのパンフレットを見させていただきましたが、まるで健診の教科書と言えるような詳しい内容が記載されていますね。

上地次長：当センターの設備、コンセプトが細かく載っていることと思います。これ以外に「人間ドックプラス」という新しい人間ドックを紹介しています。人間ドックは健康になるための最初の扉、もっと安心するためのドックが「人間ドックプラス」です。当センターと高知大学が連携して、高知大学医学部のPET検査を受けることができます。このように、高



高知検診クリニック 上地 清 次長



採血・血圧測定コーナー



MRI装置 APERTO



放射線部 副技師長 武市昌士先生

知大学とのコラボレーションは国の施設の有効活用という意味でもWIN-WINの関係になっています。高知大学としても利用者数が増えるというメリットがあります。

井桁：高知大学での検査結果が送られて来るのですか。

上地次長：受診の窓口は当センターであり、高知大学で撮影し、読影した結果が当センターに届きます。そして、その結果を含めて総合的な健診結果を参照して面談するようになっています。たいへん好評なメニューです。そのほかにも意欲的なメニューを現在考案中です。すなわち、健診結果だけの提示を行うような健診から、今後は健診後の積極的なフォローアップを行う次世代型健診への移行を考えています。

井桁：今までの「健診」から元気を支える「ヘルスサポート」というようなところに目を向けるということでしょうか。

上地次長：はい。そこに目標を持って健診を実施していくことが重要になってきますね。「健康は自分の責任である」という自覚をもっといただくための健康指導が重要になってきます。

井桁：受診者本人に気づいてもらい、行動に移してもらうことが大事ですね。

上地次長：これからは健診センターが積極的に支援することが重要となります。病気ではないけれども予備軍になっている方への指導、フォローアップが大事です。この点に着目したメニューを作っていこうと考えています。

○最新機器の導入について

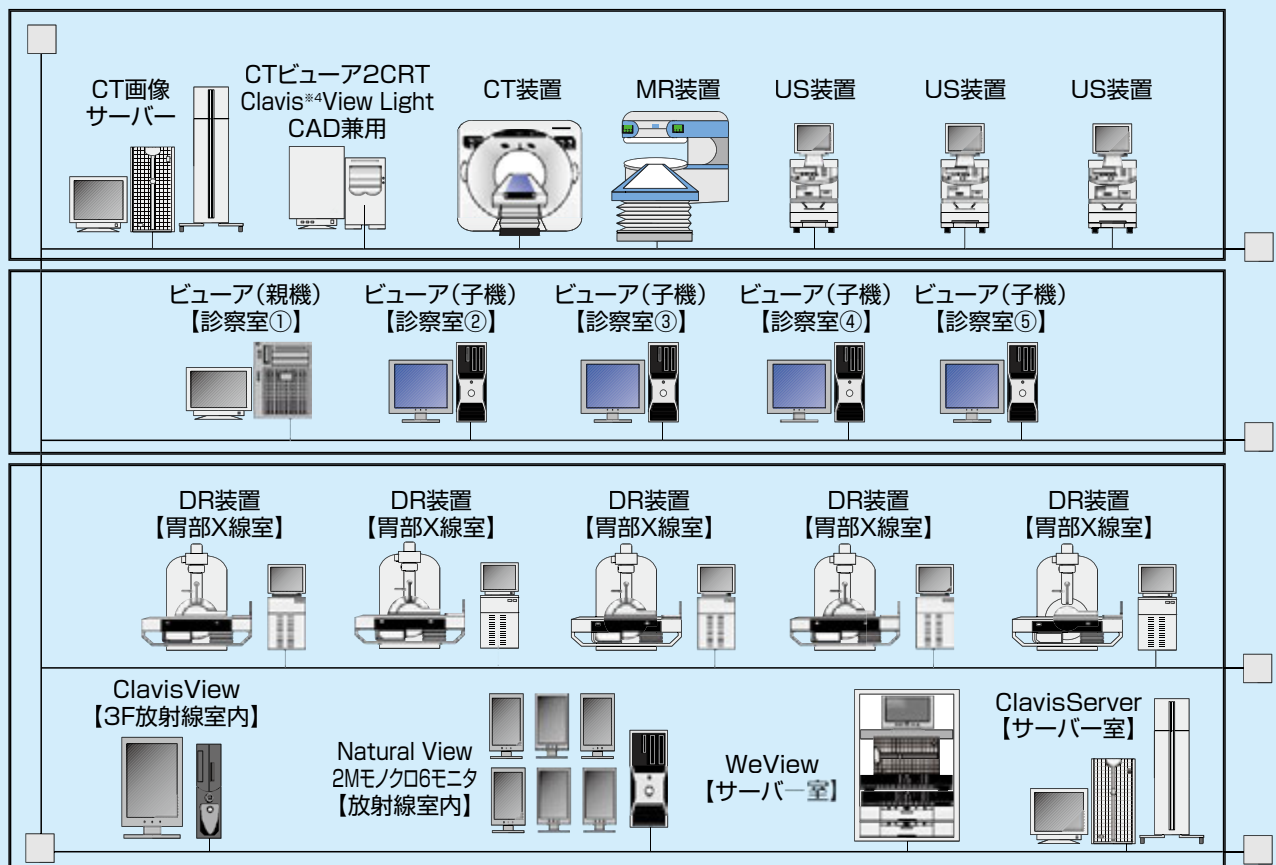
小田：このセンターでは最先端の機器を取り揃えていらっしゃるんですね。X線装置においてもFPDシステムを5台も導



Natural Viewモニター



放射線部 副部長 松本真一先生



高知検診クリニック システム構成図

入っていらっしゃいます。

**上地次長**：年に1回しか受けない検査で結論を出すためには、精度のよい装置で診断し、1回の健診でいかに正確な結果を導き出すかがとても重要です。そのためには最新の医学の力を大学からもお借りし、最先端の装置や設備を導入することが重要だと考えています。少しでもいい装置ができればその力を利用したいと思います。

**井桁**：装置にプラスしてネットワークシステム化も進んでいますね。こちらセンターでは質の高い診断環境ができていると思いますが、そのあたりのお考えはいかがでしょう。

**上地次長**：1回の検査で多くの情報を効率よく整理してまとめ、受診者の方にお話できるかが求められています。そこで、最新のネットワークシステムを導入しています。

**井桁**：健診に対する非常に熱い想いを、ネットワークシステムや診断機器に反映されているということをお聞きしまして、感銘いたしました。

**小田**：このセンターの特色として、ホームページにも「医療設備(最新鋭の電子機器)」を挙げていらっしゃいますね。

**上地次長**：ネットワークシステムを有効に使い、ダブルチェックなど他施設の力も借りることにより、健診を通して大学の恩恵を社会に還元する役割も果たしていると思います。また、保険取扱い医療機関でなくこれだけの設備を導入している医療機関は他にないと思います。これは保険事業者や受診者本人にとっても良い面があります。当センターがセ

カンドオピニオンの役割を果たせるという点です。それは異常所見があれば、全例他の医療機関にデータとともにご紹介するからです。いずれにしても健診は、その人の今後を決定付けるほど重要な役割を担っています。健康だと思っている人に対して、本人の知らない状況で潜在的な病気を見つける訳ですから。

高知県は、幕末の英雄である坂本龍馬を輩出した地です。高知の人は「議論好きで新しいことにチャレンジする」進取の気性に富む、と言われていています。一方、あまり知られていませんが、1人当りのベッド数は全国1位、看護職員数は全国2位、という医療大国でもあります。

今回、訪問した医療法人 健会 高知検診クリニックは上地次長の「常に一步先を見据えたコンセプト」の下、最先端の医療機器とネットワークシステムを導入した、まさに高知県が産んだ最新の健診センターでした。

ご多忙の中、長時間に渡って貴重なお話をお聞かせいただきましてありがとうございます。今後のますますのご発展を祈念しております。

※1 medix、※2 APERTO、※4 Clavisは株式会社日立メディコの登録商標です。

※3 Natural Viewは株式会社日立製作所の登録商標で株式会社日立メディコの製品です。



FPD搭載透視撮影システム  
medix LIBERO



放射線部員  
上段左から 岡田技師、岡本技師、浜田技師、鈴岡技師、所谷技師、中内主任技師  
下段左から 岩井技師、松本副部長、鍋島部長、下元技師長、北川技師



筆者  
左から 井桁・小田



中央 高知検診クリニック 上地次長  
左 高知営業所 清原所長/右 四国支店 工藤支店長